

価値のもつ社会の分断化作用を探究する社会科の授業構成

—中等歴史単元「太平洋戦争中の日系アメリカ人」を事例として—

Constitution of Teaching Plan of Social Studies Aiming at Inquiry into Values Which Divide the Society: The Case of Developing a History Lesson Plan about Japanese-American during the Pacific War

岩野清美
(兵庫教育大学大学院)

1. 問題の所在

「日本人」や「外国人」、「他民族」といった社会認識の枠組みは社会的な構築物であり、時代や社会によって変化するものである。しかし、「外国人」や「他民族」の存在は私たちの認識のうちのみ存在するというよりは、社会的にリアルなものであり、現に外国人労働者問題や他民族排斥運動という社会的対立が存在する。このような社会的対立が発生するとき、「日本人」という枠組みは、日本人（ウチ）と日本人ではない「外国人」や「他民族」（ソト）とを区分し、「ソト」を排除する論理として機能している。しかし生徒たちは、自らのもつ社会認識の枠組みが絶対的なものではないことにも、その枠組みが「ソト」とみなされた他者を排除しうるということにも無自覚である。

このような問題意識から、社会科教育学研究の立場からは、認識の枠組みが絶対的なものではないことを生徒に認識させる授業¹や、生徒が自分自身の価値や正当化の論理をつくりあげていくことを目標とする授業²が提案されてきた。前者は、「外国人」や「他民族」という社会認識の枠組みが社会的に構築されたものだということを生徒が説明できるようになっている。後者は、社会的対立の背後には異なる価値の対立があるという認識から、生徒が社会のあり方についての自主的自立的判断基準をつくりあげることができるようになっている。しかし、どちらの授業によっても、生徒は自らのもつ社会認識の枠組みや正当と考える価値が、「ソト」とみなされた他者を排除する論理としてはたらくすることは認識できていない。したがって、生徒が自らのもつ価値や認識

の枠組みを真剣に問い返す契機とはなりにくい。

そこで本研究では、他者を排除する社会認識の枠組みの背後にある価値に着目する。そして、日本思想史研究家のひろたまさきの論に依拠し、「よいもの」を提示する価値を受容することが、「よいもの」の対極にある「よくないもの」を排除する論理としてはたらく、社会を分断化させるという仮説を設定し、価値のもつ社会の分断化作用を探究する社会科の授業構成について考察する。

社会的に構築された社会認識の枠組みに基づいて「ソト」の人間であるとみなされた他者と自分との間に本質的な差異はないことや、自らが正当とする価値に基づいて不当とされる他者を排除することが不合理であることに気づけば、社会問題に対し合理的な判断を下すことができ、自分たちの力で差別をなくそうとする市民的行動ができると期待できる。

2. 価値のもつ社会の分断化作用

(1) 価値のもつ社会の分断化作用とは

価値の提示による社会の変化については、特に近代国民国家の形成がもたらす影響を事例に、歴史学の分野で多くの研究が積み重ねられてきた。その結果、近代国家によって提示された「文明」が「よいもの」を示す価値であること³や、国民国家形成の過程で「国民」が提示されたことが、その対極に「非国民」をつくりだし、外国人や下層の民衆を排除したこと⁴が明らかになっている。

日本思想史研究家のひろたまさきは、価値の提示による社会の変化について、民衆の「近代文明

への反乱」の動きを例に、民衆を三層構造でとらえるべきだと主張している。つまり、「近代文明を自己のものとすることによって自己解放を図ろうとした民衆上層と、まさにその近代文明のために自らの生活を破壊され、それに対する反発・怨恨を抱えながら、圧倒的な文明の優越性の前に呻吟する下層民衆、さらにそうした民衆にさえも文明の名によって差別されることになる被差別民衆」⁵の三層構造である。この三層構造を、彼は、「容易に一致しえない存在として近代に立ち現れた」ものとしてとらえ、「文明的諸価値を追求する者にとって、その対極にある野蛮は否定すべき存在であろうし、野蛮的諸現象に対する蔑視は必然的であったといえよう。たんなる蔑視にとどまらず、文明的諸価値をおびやかすものとしておそれられ排除されていく」⁶と説明する。この「文明」という価値の受容が必然的に民衆の分断をももたらすというひろたの主張は、さらに以下の点で重要な示唆を含んでいる。

文明という価値が人々の行動を変えると、文明は人々を文明化の度合いによって序列化する尺度として働く。そのため、序列の下位にある者は文明という価値を積極的に受容し、その規範に従うことで、自らの社会的地位を上昇させようとする。こうして、いったん形成された文明という価値はより多くの人に受容され、拡大再生産される⁷。

(2) 探究のための方法原理

価値のもつ社会の分断化作用について探究するために、授業のプロセスを以下のように設定し、これに従って事例を選定することにする。

段階1	社会的に「よいとされるもの」としての価値が社会によって異なることに気づく。
段階2	「よいとされるもの」としての価値が社会認識の枠組みの背後にあることを探究する。
段階3	「よいとされるもの」としての価値の提示が、社会の分断をもたらすことを解明する。
段階4	社会が分断した結果、提示された価値によって差別され、社会から排除される人々の声が届かなくなることを解明する。
段階5	価値が人々を序列化する尺度としてはたらくとき、序列の下位にある者が提示された価値を積極的に受容することで、自らの社会的地位を上昇させようすることを解明する。

本研究では、社会認識の枠組みの背後にある価値に着目し、「よいもの」と「よくないもの」という認識枠組みを構築し、社会を分断させる価値の作用を探究させる。しかし、価値や社会関係は目に見えないものであるため、それを生徒に探究可能なものにするためには、探究のための方法や教材の選択に工夫が必要である。そのため、社会的に「よいもの」とされる価値に従うことができないため社会から排除される人々の存在に着目させる。

社会事象についての表象は、社会がもつ価値や社会関係の産物である。人々は、自身の社会的地位や立場によりながら自身の声を生成する。社会的に「よいもの」として提示された価値は、「よくないもの」とされた人々を排除する論理としてはたらく、人々の社会関係を分断化する。その結果、分断された人々によってさまざまな声がつくられる。つまり、社会的地位や立場の異なる多くの人々のさまざまな声によって、社会についての表象は構成されている。したがって、排除される人々に着目し、その声を通して社会事象を探究すれば、社会の変化、分断の背後にある価値と認識枠組みを解明することができると思われる。

3. 価値もつ社会の分断化作用を探究する単元モデル

(1) 事例としての日系アメリカ人

本研究では、価値の提示による社会の分断の事例として、太平洋戦争中の日系アメリカ人を取り上げることにする。

よく知られているように、第二次世界大戦中の日本では、「よい日本人」という価値が提示された。その結果、「非国民」として排除された人々がいただけでなく、「よい日本人」という価値に従おうとするあまりに、特攻や玉砕などで自らの存在自体を消してしまった人々もいた。同様に、アメリカでも、「よいアメリカ人」という価値が権力によって提示され、その対極にあるものとして「野蛮な日本人」が描かれた。このような風潮のなかで、近代以降に日本からアメリカに移住した日系アメリカ人は差別・排除の対象となり、日系人に対する強制収容が行われたり、日系人だけ

の部隊の編成が行われ、危険なヨーロッパ戦線に送られたりした。

この価値の提示による社会の分断を、さきのひろたの論に則って以下の3つの層に分けて示す。

- A 提示された価値に従って行動する人
- B 提示された価値によって自らのアイデンティティを破壊され、呻吟する人
- C 提示された価値によって差別され、社会から排除される人

Aは「よいアメリカ人」という価値に従って、アメリカ人として戦った人々、Bは「よいアメリカ人」という価値の提示によって、自らの「アメリカ人」としてのアイデンティティを破壊され、苦しむ人々、Cは「よいアメリカ人」という価値によって差別され、アメリカ社会から排除された人々である。

事例として挙げる日系アメリカ人の一家では、Aにあたるのがアメリカ陸軍に従軍したエドの長兄である。一家の三男であるエドはBにあたる。アメリカで生まれ育ったエドは、太平洋戦争の開戦まで「アメリカ人」というアイデンティティをもっていた。ところが開戦により、「日系人」とみなされるようになり、日系人だけの部隊に入れられる。そこでエドは、自分が「よいアメリカ人」であることを示そうとしてアメリカのために危険な戦線で戦い、日本海軍に従軍した次兄については「許せない」と感じるようになる。Cにあたるのが、日系2世で床屋を営みながら日本のスパイとみなされたエドの父、強制収容されたエドの妻、山口の祖父のところに帰省しているときに戦争が始まったため日本海軍に従軍することになったエドの次兄である。

エドの家族に典型的に示されるように、「よいアメリカ人」という価値が示されたために、上記のA～Cに示した社会関係の分断化がもたらされた。その結果、「よいアメリカ人」という価値を受容しようとしたエドに日本海軍に従軍せざるを得なかった次兄の声が届かなくなったり、自由という価値を尊重するはずのアメリカ人に強制収容されたエドの妻の声が届かなくなったりした。つまり、社会から排除される人々の声が価値を受容しようとする人に届かなくなり、価値を受容でき

ない人は価値を受容する人々から構成される社会の一員とはみなされなくなっていく。

このように、太平洋戦争中の日系アメリカ人の経験は、価値の提示と個人による受容が社会関係の分断をもたらすことを、生徒にも理解可能なかたちで示すことができる事例であると考えられる。

(2) 学習過程の構成

本研究では、目に見えない価値や社会関係を生徒に探究可能なものにするために、社会的に「よいもの」とされる価値に従うことができないため社会から排除される人々の存在に着目させる。

具体的には、段階2で、「よいアメリカ人」という価値と認識枠組みが太平洋戦争中のアメリカで示されたことを解明させた後の段階3で、「よいアメリカ人」という価値に従うことのできない日系アメリカ人の存在に着目させ、日系アメリカ人の家族が分断化した事実をつかませる。さらに段階4では日系人の強制収容を扱った当時の映画の分析や、分析対象とした映画には描かれていなかった事実があることを伝え、社会が分断した結果、価値に従うことのできない人々の本当の姿が見えなくなり、それが排除を正当化したことを解明する。段階5では、日系アメリカ人のエド・イチヤマさんが、「よいアメリカ人」という価値を内面化したために、日本海軍に従軍した次兄を「許せない」と感じ、日系人部隊の442部隊で必死に戦ったことから、価値の内面化が社会関係のを引き起こすと同時に、提示された価値に従うことで自らの社会的地位を上昇させようとすることを探究させる。

段階3～5の資料とおもな発問を次ページの表1に示す。

表1 本単元の資料と問い、学習方法

	段階	資料	おもな発問
段階3	「よいとされるもの」としての価値の提示が、社会関係の分断をもたらすことを解明する。	「エドの物語」	○ 「よいアメリカ人」という価値の提示がエドの家族にどのように影響したのか考えてみよう。
段階4	社会関係が分断した結果、提示された価値によって差別され、社会から排除される人々の声が届かなくなることを解明する。	ニュース映画「日本人の移転」	○ 当時のアメリカでは、日系人の強制収容についてどのように考えられていただろう。
		映画「アメリカンパスタタイム」	○ ニュース映画「日本人の移転」を見た人が、日系人の強制収容について知らなかったことは何だろう。
段階4・5	価値が人々を序列化する尺度としてはたらくとき、序列の下位にある者が提示された価値を積極的に受容することで、自らの社会的地位を上昇させようとすることを解明する。	「エドの物語」	○ アメリカ人によって差別されていたにもかかわらず、エドが「よいアメリカ人」にならなければならないと感じていたのはどうしてだろう。

(3) 単元の目標

- ① 太平洋戦争中のアメリカにおける、「よいアメリカ人」という価値の提示が、価値のもつ分断化作用により、日系人とアメリカ人や日系人家族の関係を分断したことを説明できる。
- ② 社会が分断した結果、排除された日系アメリカ人の声がアメリカ社会に届かなくなったために、アメリカ社会で日系人の強制収容が正当化されたことを説明できる。
- ③ 「よいアメリカ人」という価値に従うことができない日系アメリカ人は、自身が受けた差別にもかかわらず、「よいアメリカ人」という価値を受容し、その価値に従うことで、自らの社会的地位を上昇させようとしたことを説明できる。

(4) 展開

プロセス	おもな発問・指示	予想される発言・思考	指導上の留意点	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校のころから、社会科の授業や平和学習のなかで、太平洋戦争について学んできましたね。 ・ 太平洋戦争について、どのようなことを知っていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空襲や原子爆弾で、多くの方が亡くなった。 ・ 原子爆弾は、小倉に落ちたかもしれない。 ・ 戦時中や戦後は食べ物がなく、子どもたちは学童疎開などをして、不便な思いをした。 ・ 沖縄からの疎開児童を乗せた対馬丸が、アメリカの潜水艦によって撃沈し、1400人以上の人が犠牲になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習内容を想起させ、戦争が「国と国との戦い」のために、個人の生命や生活を犠牲にしたことを押さえる。 	
段階1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の写真を見てください。 ・ 二対の写真には、どのようなちがいがあろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原爆死没者慰霊碑と対馬丸記念館は、戦争の悲惨さと平和の尊さを訴え、戦争で亡くなった方の冥福を祈っている。 ・ アリゾナメモリアルやボウフィン号の展示など、アメリカでの太平洋戦争に対する展示は、太平洋戦争の勝利の大きさを誇示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとに、写真を配布し、観察させる。 ・ アメリカの展示物については適宜補足し、太平洋戦争やボウフィン号に対する評価が、日米で大きく異なることに気づかせる。 	1 2 3 4

	<ul style="list-style-type: none"> 二対の写真は、私たちが戦争に対して抱いているイメージと同じだろうか、違うだろうか。違うならば、どういう点が違うのだろう。 このような写真を見て、疑問に思うこと・もっと知りたいことは何ですか。 	<ul style="list-style-type: none"> 違う。 対馬丸を撃沈したボウフィン号を、太平洋戦争の記念として保存・展示するなんて考えられない。 日本では「戦争はいけない」と考えられているのに、アメリカでは「国防は大切だ」と考えられている。 どうして、太平洋戦争に関する写真に、アメリカと日本で大きなちがいがあのか。 太平洋戦争について、私たちが知らないことは何だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 太平洋戦争やボウフィン号に対する評価の違いが、価値の違いに根ざしていることに気づかせる。 							
<p>段階 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 太平洋戦争中にアメリカでつくられたポスターを見て、考えてみよう。 ポスターを、分析の視点に基づいて読みとろう。 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%; border: 1px dashed black;">アメリカの国旗</th> <th style="width: 25%; border: 1px dashed black;">Fight for Freedom</th> <th style="width: 25%; border: 1px dashed black;">日本人のイラスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px dashed black; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 真珠湾攻撃の際に爆撃を受けた太平洋艦隊司令部の国旗が、青空の下はためいている様子。 亡くなった方の死を無駄にしないためにも、真珠湾攻撃の悔しさを忘れずにいこうというメッセージ。 アメリカが誇り高く戦っている様子を示すため。 実際に戦っている兵士のこと。 </td> <td style="border: 1px dashed black; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 戦争について報じた新聞を手にした父親と母親が安らかに眠る子どもたちを見守る様子。 私たちの愛するものと自由を守るために戦わなければならないというメッセージ。 戦争が、恐怖からの自由という大義名分に基づいたものであることを示すため。 日本にも、戦場にいるわが子のことを心配している親がいるということ。 </td> <td style="border: 1px dashed black; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 凶暴な日本人が、アメリカの安全を脅かしている様子。 日本人に攻撃されるという恐怖から守るために、戦わなくてはならないというメッセージ。 日本という国に対する恐怖を再確認させるため。 日本にも安全を脅かされた女性がおり、アメリカにも敵と戦っている兵士がいること。 </td> </tr> </tbody> </table>	アメリカの国旗	Fight for Freedom	日本人のイラスト	<ul style="list-style-type: none"> 真珠湾攻撃の際に爆撃を受けた太平洋艦隊司令部の国旗が、青空の下はためいている様子。 亡くなった方の死を無駄にしないためにも、真珠湾攻撃の悔しさを忘れずにいこうというメッセージ。 アメリカが誇り高く戦っている様子を示すため。 実際に戦っている兵士のこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦争について報じた新聞を手にした父親と母親が安らかに眠る子どもたちを見守る様子。 私たちの愛するものと自由を守るために戦わなければならないというメッセージ。 戦争が、恐怖からの自由という大義名分に基づいたものであることを示すため。 日本にも、戦場にいるわが子のことを心配している親がいるということ。 	<ul style="list-style-type: none"> 凶暴な日本人が、アメリカの安全を脅かしている様子。 日本人に攻撃されるという恐怖から守るために、戦わなくてはならないというメッセージ。 日本という国に対する恐怖を再確認させるため。 日本にも安全を脅かされた女性がおり、アメリカにも敵と戦っている兵士がいること。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちにこれから、アメリカで太平洋戦争中に作成されたポスターを見ることを伝える。 生活班を利用し、1班に1枚ずつポスターを配布する。 ポスターの語句、色、日本(人)やアメリカ(人)がどのように描かれているか、戦争に与えられている理論的根拠(ポスターの中心的なメッセージ)を明らかにさせる。 ポスターをじっくり見させた後で、左の4つの問い(分析の視点)に班ごとに取り組ませる。 班の代表者に発表させる。 これらのプロパガンダが、戦争の大義名分と国のために戦うことを訴えていることをおさえる。 	<p>5 6 7</p>
アメリカの国旗	Fight for Freedom	日本人のイラスト								
<ul style="list-style-type: none"> 真珠湾攻撃の際に爆撃を受けた太平洋艦隊司令部の国旗が、青空の下はためいている様子。 亡くなった方の死を無駄にしないためにも、真珠湾攻撃の悔しさを忘れずにいこうというメッセージ。 アメリカが誇り高く戦っている様子を示すため。 実際に戦っている兵士のこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦争について報じた新聞を手にした父親と母親が安らかに眠る子どもたちを見守る様子。 私たちの愛するものと自由を守るために戦わなければならないというメッセージ。 戦争が、恐怖からの自由という大義名分に基づいたものであることを示すため。 日本にも、戦場にいるわが子のことを心配している親がいるということ。 	<ul style="list-style-type: none"> 凶暴な日本人が、アメリカの安全を脅かしている様子。 日本人に攻撃されるという恐怖から守るために、戦わなくてはならないというメッセージ。 日本という国に対する恐怖を再確認させるため。 日本にも安全を脅かされた女性がおり、アメリカにも敵と戦っている兵士がいること。 								
<ul style="list-style-type: none"> これらのポスターで示された「よいアメリカ人」とはどのような人だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの愛するものを守るために、勇敢に戦う人。 野蛮な日本人とは異なる人。 									

	<ul style="list-style-type: none"> このようなポスターは、だれが、何のためにつくったのだろう。 みんなも知っているように、第二次世界大戦中の日本では「よい日本人」という価値が提示されました。 このような価値を提示するためのスローガンには、どのようなものがありましたか。 このような価値が提示された結果、日本ではどのようなことが起こりましたか。 太平洋戦争中のアメリカで、「よいアメリカ人」という価値が提示された結果、どのようなことが起こったのかを探究してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 政府が、人々に「アメリカのために戦いたい」、「戦争に協力したい」と思わせるため。 軍が、「アメリカ軍はアメリカのために戦っているのだ」とみんなに思わせるため。 「進め一億、火の玉だ」 「ぜいたくは敵だ」 「非国民」とみなされた人が特高警察に殺された。 神風特攻隊が、敵の飛行機につこんだ。 「玉砕」が起こり、特に沖縄では多くの人が亡くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「よいアメリカ人」という提示された価値が、「よいアメリカ人」と「そうでない人」という認識の枠組みとしてはたらくものであることをおさえる。 	
<p>段階 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> この写真を見て、わかることを出しあおう。 このおじいさんは、エド・イチヤマさんといって、アメリカに住む日系アメリカ人です。 エドのお父さんがハワイに来た頃のハワイの様子について知ろう。 エドは日本人だろうか、アメリカ人だろうか。 「エドの物語」を読んで、感想やわからないこと・もっと知りたいことを出しあおう。 	<ul style="list-style-type: none"> おじいさんの顔は日本人のようだ。 首にレイをかけている。 下の名前が先、名字を後にしているから、日本人ではないのではないか。 名字からして日本人だろうか。 名前は、アメリカ人のようだ。 どうしてアメリカに、日本人の名字で、日本人の顔をした人が住んでいるのだろう。 さとうきびの栽培がさかんになるにつれて、ハワイでは人口が増加した。 1900年代のハワイでは、たくさんの日系人が住んでいた。 日本人 アメリカ人 日本人とかアメリカ人とかいう区別に、意味があるのだろうか。 どうしてアメリカで生まれ育ったエドが、太平洋戦争中にアメリカ人によって差別されたのだろう。 どうしてエドは、アメリカ軍に志願したのだろう。 エドが次兄と会ったとき、エドはどんな気持ちだっただろう。 なぜエドは、日本海軍に従軍した次兄を許すことができなかったのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本人と外見は変わらないイチヤマさんが、アメリカに住んでいて、アメリカ人であるという事実から、生徒の学習に対する興味・関心を高めるようにする。 わからないこと・もっと知りたいことを出しあうなかで、私たちの日系アメリカ人についての知識が十分でないことに気づかせる。 生徒から出てくる疑問に答えながら、探究する問いにつなげさせる。 	<p>8</p> <p>9</p>
<p style="text-align: center;">単元を貫く問いの設定</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>なぜエドは、日本海軍に従軍した次兄を許すことができなかったのだろう。</p> </div>				

	<p>○ 「よいアメリカ人」という価値の提示がエドの家族にどのように影響したのか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次のメンバーを、「よいアメリカ人として行動した人」、「よいアメリカ人になろうとしている人」、「アメリカ人ではないとみなされた人」に分類してみよう。 〔エドの父、長兄、次兄、エド、エドの妻〕 	<table border="1"> <tr> <td>「よいアメリカ人として行動した人」</td> <td>エドの長兄</td> </tr> <tr> <td>「よいアメリカ人になろうとしている人」</td> <td>エド</td> </tr> <tr> <td>「アメリカ人ではないとみなされた人」</td> <td>エドの父 エドの妻 エドの次兄</td> </tr> </table>	「よいアメリカ人として行動した人」	エドの長兄	「よいアメリカ人になろうとしている人」	エド	「アメリカ人ではないとみなされた人」	エドの父 エドの妻 エドの次兄	<p>○ 「よいアメリカ人」という価値の提示が、社会関係の分断をもたらしたことに気づかせる。</p>											
「よいアメリカ人として行動した人」	エドの長兄																			
「よいアメリカ人になろうとしている人」	エド																			
「アメリカ人ではないとみなされた人」	エドの父 エドの妻 エドの次兄																			
<p>段階 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太平洋戦争中のアメリカ社会の変化について調べてみよう。 ○ 当時のアメリカでは、日系人の強制収容について、どのように考えられていただろう。 ・ アメリカ戦時疎開局(U.S. War Relocation Authority)によって制作され、1943年にアメリカの映画館で上映された「日本人の移転」というニュース映画を分析しよう⁸。 ・ 各グループで、以下の5つの点について分析してみよう。 <table border="1" style="border-style: dashed;"> <tr> <td>・ 映画の中心的なメッセージは何だろう。</td> </tr> <tr> <td>・ この映画の作られた意図は何だろう。</td> </tr> <tr> <td>・ 強制収容所は、どのように</td> </tr> </table>	・ 映画の中心的なメッセージは何だろう。	・ この映画の作られた意図は何だろう。	・ 強制収容所は、どのように	<ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカでは、日本との戦争開始後数時間で、日系人社会の指導者は逮捕された。 ・ 太平洋戦争開始後のアメリカでは、日系人は強制収容され、鉄条網の柵の中で銃を向けられている生活を送った。 <table border="1"> <tr> <td>語の選択</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移転ないし疎開 ・ 新しい地域への自発的な移動 ・ 集会所 </td> </tr> <tr> <td>音楽</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移住の場面では勇壮なマーチ ・ 強制収容所のシーンでは優雅な曲 </td> </tr> <tr> <td>画像の選択</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見送りの人に笑顔で手を振る </td> </tr> <tr> <td>日系アメリカ人の描写</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ きれいな服を着てバスから降りる ・ カレッジの生徒は教育を続けられる ・ 自治政府がつくられ、治安は日系人の手で守られる ・ チルドレンセンターで子どもは世話をされる。 ・ 日系三世は外へ働きに出る。 </td> </tr> <tr> <td>日系アメリカ人の収容に与えられた理論的根拠</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人がパールハーバーを攻撃し、太平洋岸は危険地帯となった。 ・ 太平洋岸に住んでいる日系人は、海軍や空軍の動きを見ることができ </td> </tr> </table> <table border="1" style="border-style: dashed;"> <tr> <td>・ 日系人は強制収容されているが、収容所での人権は十分配慮されている。</td> </tr> <tr> <td>・ 日系人の強制収容が不当なものではないとアメリカ市民に訴えること。</td> </tr> <tr> <td>・ 日系人が安全に生活することができ、か</td> </tr> </table>	語の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移転ないし疎開 ・ 新しい地域への自発的な移動 ・ 集会所 	音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住の場面では勇壮なマーチ ・ 強制収容所のシーンでは優雅な曲 	画像の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見送りの人に笑顔で手を振る 	日系アメリカ人の描写	<ul style="list-style-type: none"> ・ きれいな服を着てバスから降りる ・ カレッジの生徒は教育を続けられる ・ 自治政府がつくられ、治安は日系人の手で守られる ・ チルドレンセンターで子どもは世話をされる。 ・ 日系三世は外へ働きに出る。 	日系アメリカ人の収容に与えられた理論的根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人がパールハーバーを攻撃し、太平洋岸は危険地帯となった。 ・ 太平洋岸に住んでいる日系人は、海軍や空軍の動きを見ることができ 	・ 日系人は強制収容されているが、収容所での人権は十分配慮されている。	・ 日系人の強制収容が不当なものではないとアメリカ市民に訴えること。	・ 日系人が安全に生活することができ、か	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒たちを5つのグループにわけ、「語の選択」、「音楽」、「画像の選択」、「日系アメリカ人の描写」、「日系アメリカ人の収容に与えられた理論的根拠」のなかから1つずつを、映画分析の視点としてわりふる。 ・ 与えられた視点に基づいてメモをとりながら映画を視聴する。 ・ 視聴後、各グループでそれぞれの視点についてまとめる。 ・ 各分析視点のメンバーが1人ずつ入るようにグループを再構成する。 ・ それぞれの分析視点での分析結果を交流し、映画で強制収容がどのように描写されているのか考える。 	<p>10</p>
・ 映画の中心的なメッセージは何だろう。																				
・ この映画の作られた意図は何だろう。																				
・ 強制収容所は、どのように																				
語の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移転ないし疎開 ・ 新しい地域への自発的な移動 ・ 集会所 																			
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住の場面では勇壮なマーチ ・ 強制収容所のシーンでは優雅な曲 																			
画像の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見送りの人に笑顔で手を振る 																			
日系アメリカ人の描写	<ul style="list-style-type: none"> ・ きれいな服を着てバスから降りる ・ カレッジの生徒は教育を続けられる ・ 自治政府がつくられ、治安は日系人の手で守られる ・ チルドレンセンターで子どもは世話をされる。 ・ 日系三世は外へ働きに出る。 																			
日系アメリカ人の収容に与えられた理論的根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人がパールハーバーを攻撃し、太平洋岸は危険地帯となった。 ・ 太平洋岸に住んでいる日系人は、海軍や空軍の動きを見ることができ 																			
・ 日系人は強制収容されているが、収容所での人権は十分配慮されている。																				
・ 日系人の強制収容が不当なものではないとアメリカ市民に訴えること。																				
・ 日系人が安全に生活することができ、か																				

	<p>描かれていたか。</p> <p>・ 日系アメリカ人は、どのように描かれていたか。</p> <p>・ 映画によると、強制収容を表すのにふさわしい言葉(形容詞)は何だろう。</p> <p>○ ニュース映画「日本人の移転」を見た人が、日系人の強制収容について知らなかったことは何だろう。映画「アメリカンパスタタイム」と比較して考えよう。</p>	<p>つ、教育や養育を受けたり、仕事をしたりすることができる場所。</p> <p>・ 強制収容に自発的に協力し、収容前にアメリカで築いた財産も十分に保全されている。</p> <p>・ 自発的、粛々、自治、安全、など。</p> <p>・ 日系人が、それまでの生活で築き上げてきた生活や社会的地位を、強制収容によって失ったこと。</p> <p>・ 強制収容所では鉄条網に囲まれ、自由を奪われた生活であったこと。</p> <p>・ 強制収容所での日系人の人権は十分に守られていなかったこと。</p> <p>・ 強制収容に反対した日系人もいたこと。</p>	<p>・ 映画「アメリカンパスタタイム」の導入部分を見せ、ニュース映画「日本人の移転」と比較させる。</p> <p>○ 太平洋戦争の開戦により日系人が排除されたこと、排除される日系人の声が、排除する一般のアメリカ人には届いていなかったことをおさえる。</p>	11
<p>段階4 ・ 段階5</p>	<p>・ イチャマ家の人々が戦後、パンチボウルで再会したときの様子を想像して、それぞれの立場に分かれて、ロールプレイをしよう。</p> <p>立場 エドの父、長兄、次兄、エド、妻、エドの子ども</p>			
	<p>住んでいる場所</p>	<p>アイデンティティ</p>	<p>周りからどう見られていたか</p>	<p>当時の状況</p>
<p>エドの上の兄</p>	<p>アメリカ</p>	<p>アメリカ人</p>	<p>アメリカ人</p>	<p>アメリカ陸軍に従軍。アメリカの学校で教育を受け、自分はアメリカ人だと思っていたが、真珠湾攻撃後、差別を受けるようになり、自分は「日本人」だと感じた。</p>
<p>エド</p>	<p>アメリカ</p>	<p>アメリカ人</p>	<p>日系人</p>	<p>真珠湾攻撃後、スパイやアメリカへの裏切りをしていると疑われた。アメリカへの忠誠を示すためには、442部隊に参加し、第二次世界大戦で命を捧げて戦うしかなかった。</p>
<p>エドの父</p>	<p>アメリカ</p>	<p>日本人</p>	<p>日本人</p>	<p>日本軍の真珠湾攻撃後、日本の信仰や習慣を否定する「アメリカ化(同化)」運動がおこった。子が親に反発や軽蔑の態度を示し、家族のなかで亀裂が走ったりした。戦争中は、音信がとれなくなった次兄を心配していた。</p>
<p>エドの妻</p>	<p>アメリカ</p>	<p>アメリカ人</p>	<p>日系人</p>	<p>戦争が始まったことで、学校を辞めざるを得なくなった。強制収容された収容所はもとも家畜を展示していた場所を作り替えたもので、馬房を区切ったものが住居となった。周囲には鉄条網があり、監視され、自分たちに銃口が向けられている生活を送った。</p>

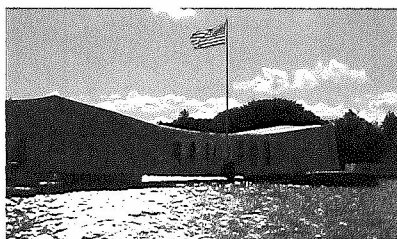
エドの下の兄	日本	アメリカ人	日本人 〔国籍はアメリカ人〕	山口の祖父のもとに帰っているときに戦争が始まってしまい、日本海軍に従軍することになった。
<ul style="list-style-type: none"> それぞれの物語を読み、次の点を考えてみよう。 それぞれの状況で、どのように感じていたか。 それぞれの状況で、自分ならどのように行動するか。 いちばん苦しかったことは、なんだろう。 それぞれの状況で、どのような願いをもっていたか。 「日系人」と見なされたエドは、アメリカ社会の中で自分がどのような位置にいると感じていたのだろう。 ○ アメリカ人によって差別されていたにもかかわらず、エドが「よいアメリカ人」にならないと感じていたのはどうしてだろう。 <p>太平洋戦争中にエドを苦しめていたものは何だったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同じ家族であっても、アイデンティティや戦争中に経験したことが異なれば、感じていたことや苦しかったこと、願いは異なる。 差別されている。 自分はアメリカ人であり、「よいアメリカ人」になりたいと思っているのに、アメリカ人はわかってくれない。 父にかけられたスパイ容疑を晴らすためにも、自分がアメリカ人としてしっかりしなければならなかった。 アメリカ軍に志願したら、他の兵士とは別に日系人だけの 442 部隊に入れられてしまった。この差別に打ち克つためにも、しっかり戦おうと思った。 ○ エドは、「よいアメリカ人」という考えを自分のなかにももっていたので、自分が頑張って「よいアメリカ人」になり、アメリカ人に認められたいと考えていた。 <p>エドは、アメリカ人としてアメリカのために進んで戦おうと思った。そして、アメリカ人なのに日本海軍に従軍している次兄を許せなかった。</p> <p>差別によってエドは、「アメリカ人」という自分のアイデンティティを奪われたこと。</p> <p>アメリカ人としてアメリカのために戦いたいと思っていたのに、他の兵士とは別に日系人部隊に入れられたこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちを、6つの立場に分かれさせる もう一度班でエドの物語を読み、それぞれの立場が第二次世界大戦中にどのような体験をしたかをまとめる。 ワークシートを使って、それぞれの立場が置かれていた当時の状況と、感じていたこと、行動・願いを考えさせる。 エドの子どもの役は、ロールプレイで司会をさせる。それぞれの立場に聞きたいことを考えさせる。 ロールプレイでは、司会の生徒は、大人役の班の発言を聞いて、感じたこと・考えたことを発表させる。 ○ 「よいアメリカ人」という価値をエドが受容したことが、危険の大きい 442 部隊に志願させたことに気づかせる。 		
<p>○ 「戦争に勝つ人は誰もいません。だれもです」というエドの言葉には、どんな思いが込められているだろう。学習を振り返り、感想を書こう。</p>				

【資料】

- 1 原爆死没者慰霊碑の写真 (http://www.pcf.city.hiroshima.jp/virtual/VirtualMuseum_j/tour/ireihi/tour_20.html)
- 2 アリゾナメモリアルの写真
- 3 対馬丸記念館の展示 (<http://www.tsushimamaru.or.jp/jp/about/about1.html>)
- 4 ボウフィン号に関する展示(USS Bowfin Submarine Museum & Park)

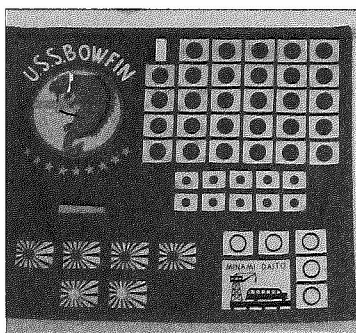
- 5 アメリカの国旗: *Emily Rosenberg A Date Which Will Live: Pearl Harbor in American Memory*, 2007年8月1日 ハワイの東西交流センターで行われたワークショップ「Pearl Harbor: History, Memory, Memorial」での講義資料
- 6 *Fight for Freedom: World War II Posters*, Dover Publications, 2001
- 7 日本人のイラスト: *Geffrey White "History, Memory, and Memorial" at Pearl Harbor*, 2007年7月30日 上記ワークショップでの講義資料
- 8 エド・イチヤマさんの写真
- 9 エドの物語 (矢口祐人・森茂岳雄・中山京子『入門 ハワイ・真珠湾の記憶』明石書店、2007、pp.32-33)
- 10 ニュース映画「日本人の移転 (Japanese Relocation)」, U.S. War Relocation Authority
- 11 映画「アメリカンパスタタイム 俺たちの星条旗」

2

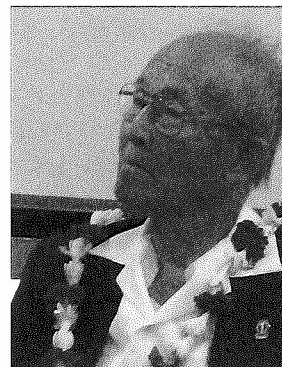


(写真はすべて筆者撮影)

4



8



4. 今後の課題

本研究では、価値のもつ社会の分断化作用を探究する社会科授業の構成について考察することを目的として、太平洋戦争中の日系アメリカ人を事例とした授業開発を行った。

しかし、「今ある社会」のなかで生きている生徒たちにとって、社会的に「よいとされるもの」としての価値が社会によって異なり、それが社会の分断をもたらしているという仮説は容易に受け入れられるものではない。価値のもつ社会の分断化作用を探究させる授業モデルの開発を、さらに進めていく必要がある。

〔注〕

- 1 例として、
 - ・石川照子「社会問題研究としての地理の単元構成－各国の外国人政策にみるウチとソトの論理－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第18号、2006、pp.91-98
 - ・高橋健司『『人種』の普遍性を問う歴史授業の開発－社会システムの視点から－』全国社会科教育学会第55回全国研究大会 課題研究Ⅱ、2006

が挙げられる。

2 例として、

- ・溝口和宏「開かれた価値観形成をめざす社会科教育－『意思決定』主義社会科の継承と革新」全国社会科教育学会『社会科研究』第56号2002、pp.31-40

が挙げられる。

3 牧原憲夫『客分と国民のあいだ－近代民衆の政治意識－』吉川弘文館、1998

4 今西一『文明開化と差別』吉川弘文館、2001

5 ひろたまさき「1 パンドラの箱－民衆思想史研究の課題」 ひろたまさき、キャロル・グラック監修 酒井直樹編著『歴史の描き方1 ナショナル・ヒストリーを学び捨てる』東京大学出版会、2006、p.20

6 ひろたまさき『差別の諸相』岩波書店、1990、p.512 (ひろたによる校注)

7 牧原憲夫『客分と国民のあいだ－近代民衆の政治意識－』吉川弘文館、1998

8 この学習活動の基本的なアイデアは、Greg Francis, Samantha Hojo, Selena Lai, Gary Mukai, Steven Yoda, "Civil Rights and Japanese-American Internment" SPICE, 2001に負っている。